

# インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) トウヨウダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) マーケティングガクカ
東洋大学	経営学部	マーケティング学科

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) コットンキャンピィ	フリガナ) ハマナアイリ	4	無
こっとんきゃんぴい	浜名愛理		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
自分たちで作成、使用した POP

研究テーマ (発表タイトル)
最近泣いていますか? ~涙活による離職者の減少~

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

研究目的は、20 年間解決されていない新卒の離職率を下げることである。現状 5 割の企業が正社員の不足を感じており、正社員不足の影響として売上や利益の減少を顕著に感じている。

今後は少子高齢化の加速により、新卒で入社する社員数も大幅に減少すると予測されている。このような状況が続くと、正社員不足が加速し、会社の成長を妨げることになりかねないといえる。私達はそれを大きな問題であると考えて新卒の離職率を下げるプロジェクトを行いたいと考えた。

## 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

新卒の離職の一番の原因は、ストレスであると言われている。  
その詳しい要因を調査するために、私達は大学生にアンケートを実施した。その結果、大学生の中で大きなストレスを抱えている人は 2 割に満たないという現状が明らかになった。私たちはこのアンケートから、大学生のうちに大きなストレスを抱える状況が少ないため、社会人になってから、環境の変化などのギャップが大きい事がストレス原因であると考えた。  
これらのストレス問題に関して、政府としても平成 26 年 6 月に労働安全衛生法を改正し、ストレスチェック制度を義務化した

が、ストレスの度合いをチェックするだけにとどまっており、具体的なストレス解消法は提案されていない。そのため、自分自身でストレスに対処することが必要不可欠となっている。

そこで、私達はストレスを抱えている大学生に「現状ストレス解消法を持っているのか」というアンケートを取ったところ、気軽にストレスを解消する方法を持っている人が3割にも満たないという結果が得られた。

### 3. 研究テーマの課題

現状分析からこの研究テーマの課題は2つあると考えた。

#### ① ストレスの効果的な解消法 ② 大学生へのアプローチ

①に関しては早稲田大学人間科学学術院の山内兄人教授の研究結果より「セロトニン神経がストレスに対する防御機能を持つことが明らかになった。」と論じられている。またセロトニン神経は副交感神経の活発になる活動であるスポーツ、休息、睡眠等が一般的に挙げられている。

②に関しては大学生はストレスを普段抱えていないためストレスの対処法を持っていない人が多いことから、大学生に対して解消法を訴求するイベントを開催する。

①と②を踏まえた上で副交感神経を活発化させる活動を大学生に行うということが課題解決策に必要な要素であると考えた。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の①、②の課題を解決するために私達は、学生に涙活を広めていくという頭文字をとった「るいぐプロジェクト」を行う。涙活とは、ストレスを解消するために積極的に泣く活動のことである。私達が涙活を大学生に広めたい理由は以下の2つである。

#### ① ストレス解消の効果がとても高いにもかかわらず大学生には広まっていないこと。

涙活は、最近ではメディアなどで特集もされているが、私達の調査では既存の涙活で大学生に対してアプローチをしているものが無く、認知度は2割にとどまっている。

#### ② 大学生にとって気軽にできるストレス解消法の需要があること。

アンケートの結果から大学生は気軽にできるストレス解消法を持っていない8割の人が今後欲しいと感じている。そのためお金がかからず気軽にできる涙活が受け入れてもらいやすいと考えた。

私達のるいぐプロジェクトは、参加する学生と日本の企業の2者に以下のようなメリットがあるといえる。学生には、手軽にできるストレス解消法を提供することでストレスと上手く付き合えるようになるというメリットがあり、日本の企業には、ストレスと上手く付き合うことのできる学生が増えることで、離職率の低下へとつながると考えられる。

私達の涙学プロジェクトの事前準備は以下の2つである。

#### ① 涙活イベント用のパワーポイントを作成

動画のサンプルを大学生に視聴してもらい、様々な価値観に分けた泣ける動画を選定。この際、涙活の提唱者である寺井弘樹氏に概要を説明したところ、るいぐプロジェクトをとても称賛していただくことができ、全面的に協力をしてくださった。寺井弘樹氏から既存の涙活で得られた知見や反響が多かった涙活専用動画の提供やアドバイスなどを頂くことができた。私達自身でも既存の涙活イベントに何度も足を運びアンケート調査を行なった。涙活用の動画に加え、大学生に対してストレス解消法を持つことの重要性などを30分ほどのパワーポイントにまとめた。

#### ② 涙活イベントの集客を行う

私達は大学の就職キャリア支援室や学食など大学生の目にする場所でのPOPの設置の許可をもらい、掲示した。それに加えて大学生がよく利用するSNSなどを活用しての宣伝や知り合いを通して口コミしてもらうなどして涙活イベントの集客を行なった。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

我々は8月30日、9月9日、9月12日に東洋大学の学生へ向け、そして9月25日に明治大学の学生へ向けて涙活イベントを開催した。イベントの概要は以下の通りである。

## ◆ 東洋るいがかプロジェクト ◆

場所：東洋大学 フォレスト

時間：12時10分～40分

参加人数：8人、14人、15人

## ◆ 明治るいがかプロジェクト ◆

場所：明治大学 リバティータワー

時間：12時10分～40分

参加人数：8人、14人、15人

私達がるいがかプロジェクトを行う際のポイントは、イベントを実施することによってイベントの質を高めることである。私達はイベントの終了後にアンケートを行うことや、定性的な調査を行うことで1回目よりも多くの大学生に感動してもらえる涙活イベントになったといえる。これからはるいがかプロジェクトを改良し様々な大学で同様のイベントを行なっていきたいと考えている。

そして、今後の課題として以下の2点が挙げられる。

### ① 活動の継続性② 更なる認知の拡大

活動の継続性については、7月3日がなみだの日であることから毎月3日をるいがかの日と定め、るいがかプロジェクトを開催していくことを予定している。

更なる認知の拡大については、3点の方法を予定している。

1つ目に他大学での涙活イベントを多々行なっていくことを予定している。

2つ目に大学生が多く集まる合同説明会などで涙活の説明や動画を流してもらうことを予定している。2に関しては実際にマインビ・リクナビなどの人材会社9社へメールで依頼中である。

3つめに専門家との提携を予定している。私達のSNSアカウントを見て、早稲田大学大学院の吉田英史教授から称賛と今後の協力意向のご連絡をいただくことができた。高校や企業等で涙活イベントを実施している実績がある方であるため今後は3つ目の案として吉田教授にも協力していただき、涙活イベントを行っていきたいと考えている。

## 6. 結果や今後の取り組み

私達は現状、涙活を学生に対して行なっているイベントが少ないため、私達のるいがかプロジェクトを学生にアプローチすることで離職者を減少させる事を目的として活動を開始した。イベント後に行ったアンケートや定性調査の結果から、「ストレスで眠れていなかったが涙活をした日はよく眠れた」や「ストレスを抱えている友達がいたらぜひ涙活を勧めたい」などの肯定的な意見が数多く得られたことから、るいがかプロジェクトは満足度が高いイベントになり涙活の認知を拡大させる第一歩になったと言える。

今後は課題で挙げた継続性と認知の拡大に取り組んでいきたいと考えている。継続性を高めるため、月に一回のるいがかプロジェクトを行う。更なる認知の拡大のためには、私達のるいがかプロジェクトに賛同をくださった早稲田大学大学院 吉田英史教授らとの合同イベントを開催することなどを行い、離職者の減少を目指す。

## 7. 参考文献

有田秀穂「脳からストレスを消す技術」(2012) サンマーク文庫

厚生労働省「労働者健康状況調査」

[http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/h24-46-50\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/h24-46-50_01.pdf)

厚生労働省「みんなのメンタルヘルスケア」

[http://www.mhlw.go.jp/kokoro/first/first02\\_1.html](http://www.mhlw.go.jp/kokoro/first/first02_1.html)

パブリックヘルスケアセンター <https://www.phrf.jp/>

弁護士ドットコム 2017年07月20日 [https://www.bengo4.com/c\\_5/n\\_6389/](https://www.bengo4.com/c_5/n_6389/)

2014/06/13 日本経済新聞 朝刊 29ページ

2015/11/22 日本経済新聞 朝刊 1ページ

2017/07/27 日本経済新聞 朝刊

セロトニンの秘密を探る 東海大学久保明教授

[https://www.ohara-ch.co.jp/meitantei/vol01\\_1.html](https://www.ohara-ch.co.jp/meitantei/vol01_1.html)

うつ病への効果が期待できる涙活 出村博教授

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/4435?page=4>

#### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

**↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください**